

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水產業費 項：畜產業費 目：畜産振興費

事業名 飛驒牛繁殖マイスター育成事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 畜産振興課 飛驒牛銘柄推進室 銘柄推進係 電話番号：058-272-1111(内4139)

E-mail : c11437@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,072千円 (前年度予算額) 2,300千円

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 収 入	寄 附 金	そ の 他	県 債
前年度	2,300	0	0	0	0	0	0	0
要求額	1,072	0	0	0	0	0	0	0
決定額								

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

「飛驒牛生産の担い手育成」と「繁殖雌牛の増頭」を目的に、現在、県内2か所で飛驒牛繁殖研修施設の整備を行い、研修事業が開始された。

そのうち、美濃加茂市の施設は、岐阜大学と全農岐阜、岐阜県の産官学が連携する全国初の肉用牛繁殖研修施設として、令和2年4月から研修を開始し、岐阜大学を中心に研修生へ講義、実習を実施している。

(2) 事業内容

○研修生募集及び研修の運営

- ・募集チラシ作成や配布、就農相談会への出展等による研修生の募集活動
- ・研修に係る経費の助成及び研修コーディネートを実施

○就農支援

・新規就農の初期投資軽減につながるアパート牛舎の建設や、空き牛舎のリフォーム等有効利活用方法について検討及び調整する。

・研修期間中の人脈づくり及び就農から定着までを、地域支援協議会と連携し支援する。

(3) 県負担・補助率の考え方

研修生の募集や就農支援は県が担う業務である。

飛騨牛繁殖研修センターの運営について、研修に必要な資材等は県負担。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	200	研修生募集、就農支援に係る旅費等
需用費	700	研修実施に必要な資材費、研修生募集活動に必要な資材費等
役務費	12	通信運搬費
備品購入費	160	牛体重測定用備品
合計	1,072	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「ぎふ農業活性化基本計画（仮称・令和8年3月策定予定） 基本方針1 新たな担い手の確保」 飛騨牛生産を担う新たな担い手の育成が必要であり、飛騨牛繁殖研修センターにおいて研修生の就農支援、就農後のフォローアップを行う。

(2) 国・他県の状況

「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針（令和2年3月策定）」において肉用牛の生産基盤強化及び、国内牛肉需要、輸出拡大のため「繁殖雌牛増頭」を目指すこととしている。

(3) 後年度の財政負担

産官学連携事業であり、県の役割を担う部分についての経費負担が必要。

(4) 事業主体及びその妥当性

研修生募集や就農支援は県が担う業務であることから、県が実施。

研修生の研修に必要な経費については県で負担することとしている。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

令和2年度から開始した研修事業において、毎年2名の研修生を確保し、研修内容を充実させ、それぞれ2年後の就農につなげる。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R1)	R6年度 実績	R7年度 実績	R8年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
① 研修生数	0	0	1	2	2	50%
②						

○指標を設定することができない場合の理由

（記入欄）

(これまでの取組内容と成果)

令和 4 年 度	<ul style="list-style-type: none"> ・研修生の募集（就農フェア等への参加）（5回） ・研修生募集リーフレットの配布 ・ホームページの更新 ・アパート牛舎運営のための打ち合わせ（1回）
	指標① 目標：2 実績：2 達成率：100 %
令和 5 年 度	<ul style="list-style-type: none"> ・研修生の募集（就農フェア等への参加）（9回） ・研修生募集チラシ、手引書の作成・配布 ・インスタグラム、フリーぺーぺー広告による広報 ・研修施設紹介動画の作成支援
	指標① 目標：2 実績：0 達成率：0 %
令和 6 年 度	<ul style="list-style-type: none"> ・研修生の募集（就農フェア等への参加）（9回） ・研修生募集チラシ、手引書の作成・配布 ・インスタグラム、フリーぺーぺー広告による広報 ・研修施設紹介動画の作成支援
	指標① 目標：2 実績：1 達成率：50 %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	飛騨牛生産の担い手確保と繁殖雌牛の増頭につなげるため、大学・全農・県の3者が連携し取り組んでおり、県は募集と就農支援を担うことから、必要性が高い事業である。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない
(評価) 2	令和2年度から研修を開始し、これまでに県内へ4名就農し、担い手の育成に貢献している。

・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている

(評価) 2	大学・全農・県の3者連携はもちろん、農林事務所、市町村、地域農協、地域就農支援協議会、ぎふアグリチャレンジ支援センター等との連携により、担い手の育成に取り組む体制が構築されつつある。
-----------	---

(今後の課題)

- ・事業が直面する課題や改善が必要な事項
- ・研修事業における経費の増加
- ・研修修了後の就農先の確保
- ・効果的な研修生の募集活動の実施

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
・研修生の募集は、毎年実施する。
・研修修了後の就農先を確保し、當農定着のため、アパート牛舎や空き牛舎の利活用など、市町村や農協、生産者団体と連携して取り組む。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	